

「未来医療国際拠点整備・運営事業に係る有識者会議（令和7年10月31日開催）」  
における有識者コメント

【総評】

- ・未来医療国際拠点における事業の内容等は妥当と考えられ、「概ね計画どおり取り組まれている」との大阪市の評価は適切である。

【有識者の主なコメント】

- ・入居企業対象の交流会やセミナーの他、市民向けヘルスケアイベントや子ども向け医科学イベントなども実施され、「交流・共創・発信」の場や「人材育成」の場としての活用が図られており、評価できる。今後は、取組実績に関する定量的データの取得・記録の充実を図り評価に活用することや、参加者アンケートを通じて参加者の満足度の把握等にも取り組んでいただきたい。
- ・大阪市立科学館などの周辺施設、周辺地域へのアウトリーチ活動にしっかりと取り組んでいただきたい。
- ・ワンストップサービスの構築に向けては、Nakanoshima Qross に対しどのような需要があるのか確認し、今後のロードマップを描くことが重要である。
- ・スタートアップ支援の取組みはまだ序盤。Nakanoshima Qross 発のスタートアップをどう定義し進めていくのか、他拠点との差別化を図りつつ、方向性の検討が必要である。
- ・外部機関との交流、情報発信は十分に取り組まれている。大阪・関西万博の影響等もあり、Nakanoshima Qross の知名度・ブランド力が向上したと感じる。連携協定締結は評価できるが、今後は連携の取組みの具体化が求められる。
- ・前年より企業等の集積が進み、未来医療推進機構の収支状況は改善されているが、今後も経営の健全化に向けた一層の努力が必要と考えられる。
- ・取組分野ごとにKPI（重要業績評価指標）を設定することが望ましい。取組みの更なる推進やKPI 設定に向けては、未来医療推進機構の経営状況を勘案しつつ、機構を支える事務局機能の充実が必要と考えられる。